広報 伊達 133

発行日　令和元年７月19日
発行者　伊達地区小学校長会
　　会長　高橋　孝
編集　同　広報部

《巻頭言》

主体的な学びに向けて

伊達地区小学校長会長
高　橋　　孝
（伊達市立掛田小学校長）

東日本大震災後，遠ざかっていた伊達地区交通安全子ども自転車大会に霊山地区を代表して参加することになった。働き方改革が叫ばれる昨今であるが，関係機関との連携，子どもたちの交通安全に対する意識啓発につながればとのねらいで引き受けた。日頃お世話になっている交通安全協会の方に感謝の気持ちを表しながら，自転車走行技術や安全知識を身に付けてはと呼びかけると，５名の６年生女子が手を挙げてくれた。

短い期間ではあるが最善を尽くそうと子どもたちと練習計画を立て，昼休みは校長室で筆記試験に，放課後は校庭で交通安全協会の方々の指導のもと自転車の実技練習に取り組んだ。

大人の事情で引き受けたところもあるが，練習の日を追う毎に子どもたちの様子に変化が･･･「校長先生，休み時間や昼休みも練習していいですか？」「朝練もしていいですか？」目を輝かせ，進んで練習に取り組み，技能を高めようとする姿に感心した。この主体的な姿は，正にアクティブな学びで，どちらかといえば教育課程外のことで受身的であった自分が恥ずかしく感じた。「好きこそものの上手なれ」とはいうものでやる気の出てきた子どもたちは徐々に上達していった。

職員会議で子どもたちの頑張りを伝えると共に，そのような主体的な姿を授業の中でも見られるように仕組んでいこうと確認した。学ぶことに興味や関心を持ち，見通しを持ち粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返り次につなげる主体的な学びを実現していこうということである。

いよいよ，次年度から新学習指導要領が完全実施となる。平成の時代には，生活科や総合的な学習の時間の新設，小学校外国語活動の導入，道徳の「特別の教科」化と進み，今度は外国語科が新設された。新学習指導要領では社会に開かれた教育課程の実現を重視し，子どもたちに育む資質・能力を「知識及び技能，思考力・判断力・表現力等，学びに向かう力・人間性等」と明確化。これらを育むために「主体的・対話的で深い学び」を通した授業改善を図りながら，学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの確立に努めるように促している。

情報化やグローバル化等の社会的変化が予測を超えて進展していく不透明な時代を生き抜いていくために，新たな価値を生み出すための力を身に付けなければいけない。子どもたちが変化に受身で対処するのではなく，主体的に向き合って関わり合い，その過程を通して自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるように，失敗を恐れず様々なことに挑戦することをチーム学校で応援していきたい。

会員数２０名でスタートした小学校長会も伊達の子どもたちの幸せのために一枚岩となり，協議会活動の基本テーマ「教育改革期における学校組織マネジメントの確立と推進」の具現化に向け，主体的に研修を進めたいものである。

自転車大会では思うような結果を残せず，子どもたちは意気消沈したが，短い期間に熱心に練習して知識や技能を高めた頑張りは見事であったと称賛し，練習過程でみせた主体的な姿を色々な場面でも遠慮なく発揮してほしいと伝えた。

《　提　言　》

学校における働き方改革をどう進めるか？

桑折町教育委員会教育長　会　田　智　康

53年前は平均月８時間の時間外勤務が…

今は，過労死ラインの月８０時間超が小学校教員の３割，中学校教員の６割であるという。

１月には，公立学校教員の働き方改革に関する中教審答申が出された。教職調整額４％（半世紀前の実態に基づき算定された超勤手当相当額）を定めている**教職員給与特別措置法の抜本的見直しは先送り**されたが，いくつかの提言がなされ，国の方針も示され，今度は教育委員会や学校で具体的に働き方改革を進めることが求められている。

学校の「当たり前」をやめた。

本来の目的のために，固定概念にとらわれず最適な手段を見つけ出そうという考えのもと，宿題・クラス担任・定期テストなどを廃止している中学校長の取組が話題となっている。

中教審答申の柱の一つは，**学校及び教員が担う業務の明確化・適正化**であり，背景には，日本型学校教育の「当たり前」は世界の「当たり前」ではないということがある。イギリスでは，出欠席確認や教室掲示，児童生徒データ作成・管理，試験業務などは「教員がしなくてよい業務」として国が通知している。授業中心の教育指導のみが教員の仕事なのである。

しかし，日本でそれをやるためには，学校・教員以外の受け皿（地域の人材，関係機関等）や教員を支援するしくみ（支援スタッフ，ＩＣＴ等）の確保と整備が大前提となる。学校における働き方改革は，学校を取り巻く社会改革なのである。

> 提言その１：本来の目的に向け，幅広い議論をしながら今までの働き方の「当たり前」を見直す。

わたし，定時で帰ります。

このＴＶドラマの原作小説を読んでみた。主人公の女性会社員は，ワークライフバランスに関する個人的な体験から，絶対に定時で帰ると決めている。「定時退勤は勇気のしるし」という信念のもと，中華料理店のサービスタイムで半額の生ビールを飲むために，綿密に時間を計算しながら仕事を進めていく。

中教審も，勤務時間の制限を提言している。**勤務時間管理の徹底**に加えて，**時間外勤務の上限の設定**や**年単位の変形労働時間制の導入**である。

わたしたちに時間は無限に与えられているわけではない。タイムマネジメントは必須である。

> 提言その２：勇気を持って勤務時間管理を行う。

働き方改革は自分改革でもある

働き方改革を進めるためには，学校を取り巻く社会が変わる必要があるが，それを求めるだけでは足りない。**教職員一人一人の業務改善と効率化**を進めていく必要もある。仕事の無駄をなくし質や効率を高める努力が，わたしたちに求められているのである。学校における働き方改革は，学校に勤める自分改革でもある。

> 提言その３：自分の意識と行動も変える。

ＮＨＫも市長も働き方改革

朝ドラも制作現場の負担軽減のため，来年からは週休２日制になるらしい。半年間，土日行事への出席を取り止めている市長の取組はどうなるか。

学校における働き方改革も，**新学習指導要領実施に向けて社会全体で進めようとしている今**こそが千載一遇の好機，逃すわけにはいかない。

> 提言その４：今，できるところから手をつける。

お互いにがんばりましょう！

《新会員より》

堰本の底力に支えられて

伊達市立堰本小学校長　髙　見　良　典

堰本小学校に赴任して強く感じたことは，学校と地域との結びつきが強いということです。４月から早速，婦人会，防犯協会，体協，そして，せきもとさとづくり推進協議会の総会に出席しました。地域の団体は，この他にもあるのですが，さとづくり推進協議会を要として，それぞれの団体が単独としてではなく，様々な活動を通して，さらには人的にも，しっかりと結びつき，地域が一体となって，常に「地元の学校」「地元の子どもたち」のことを第一に考えて，学校をサポートしてくださっているのです。まさに，堰本の底力とでも言いましょうか，こうした地域の力強くて温かい支えのもとに，これまでの堰本小の教育活動が伝統的に展開されてきたのだと思うと，身が引き締まる思いです。これまでの校長先生方が築いてこられた，学校と保護者，地域が一体なった堰本小の教育をさらに発展させることができるよう，誠心誠意頑張っていきたいと思っております。

会員の皆様，どうぞよろしくお願いいたします。

まされる宝

伊達市立粟野小学校長　木　村　圭　吾

粟野小学校の玄関には「粟野小学」という大きく立派な木の額が飾られています。これは「幕末の三舟」と呼ばれた高橋泥舟の書であり，粟野小学校の校長室にはその直筆が飾られています。ちなみに後の二人は勝海舟，山岡鉄舟という維新の英傑です。この書は粟野中通の池田氏のご先祖が勝海舟を通して書いていただいたものだそうです。粟野地区は昔から学校の教育に多大な貢献をしてきました。その伝統は今も脈々と受け継がれています。そのため，子どもたちは健やかに育っています。

新元号令和の出典として話題になりました万葉集に「銀（しろがね）も金（くがね）も玉も何せむに勝（まさ）れる宝子に及（し）かめやも」という歌があります。万葉の時代から明治そして令和と変わらぬものは「子は宝」ということだと思います。私は新任校長としてこの思いを忘れず，子どもたちが光り輝くように，全力で職務に取り組みます。どうぞよろしくお願いいたします。

自　他　共　榮

伊達市立大田小学校長　佐々木　誠一郎

４月に着任して以来，毎朝校長室に入るたびに「自他共榮」の文字が私を迎えてくれます。「進乎齋」とありますが，講道館の初代館長であり，柔道を世界に広めた，嘉納治五郎先生が揮毫されたものです。これは，大田出身の教育家落合寅兵氏が嘉納先生に師事し，交友も深かったことから郷土のためにとお願いして，書いていただいたものだそうです。大正８年頃大田小学校に寄贈されました。

「相手に対して敬い，感謝することで信頼し合い，助け合う心を育み，自分だけでなく他人と共に栄え合う世の中をめざす。」現代における「共生社会」をめざした，その書に接するたびに身が引き締まります。嘉納先生の理想には遠く及びませんが，私も大田地区を深く理解し，家庭・地域と連携，協働しながら共に子どもたちを育てていく思いを新たにしています。これから，先輩校長先生方のご指導をいただきながら，精一杯努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

日々充実しています

伊達市立石田小学校長　粥　塚　保　則

石田小学校に赴任して２カ月。日々新鮮な気持ちとワクワク感が続いております。校舎内外の素敵さ，周りの自然の豊かさ，先生方の和気あいあいとした雰囲気，保護者，地域の皆様のあたたかさ，そして何よりも子どもたちの笑顔。学校に出勤するのが日々楽しみです。

全校生２０名，完全複式という本校は，先生方，子どもたちが本当に近い距離感で，学校生活を送っています。朝の登校を見守っていると，子どもたちが元気に校庭に出て，走り始めます。給食はランチルームに全校生が一堂に会してとります。そこで素早く給食を配膳し，子どもたちと歓談しながらゆったりとした中で昼食です。教諭，教頭時代を通じても，今までの教職経験の中で味わったことのない，小規模校ならではの幸せを実感させていただいています。

校長としてはわからないことも多く，周りの校長先生方にご指導を仰ぐことばかりですが，気張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

《新会員より》

閉校の重みと開校への期待を感じて

伊達市立月舘小学校長　邉　見　年　成

ご存じのように，本校は，本年度でその長い歴史に終止符を打ちます。近年，各地で閉校，統合という言葉を耳にするようになりました。しかし，そのかげには，卒業生や地域の方々の「自分たちの学校がなくなる」という思いがあることを忘れてはならないと考えております。

その思いをしっかり受け止めて３月の閉校を迎えたい，そして，月舘小学校を惜しみつつ，「新しい月舘学園小中一貫校も楽しみだな。期待できるぞ。」と感じてもらえるような学校づくりに取り組んでいきたいと考えています。子どもたちにも，保護者にも，地域の方にも・・・

閉校と開校という２つの歯車をしっかりかみ合わせ，子どもたちがその過程で成長していくことができるようにしていきたいと考えております。

初めての校長職であり，不安は絶えませんが，伊達地区の校長先生方のご指導をいただきながら，努力して参りたいと思います。どうぞ，よろしくお願いいたします。

学校経営のキーワードは「本物」「徹底」

桑折町立醸芳小学校長　高　野　孝　男

本校では，始業前朝の１０分間（週３回）を日課表に位置づけ，百ます計算，漢字，音読に学校全体で取り組んでいます。これは，授業の根幹となる「集中力」を身に付けることを主なねらいとして，陰山英男先生，川島隆太先生の理論に基づく学力向上，生活基盤作りに桑折町全体で「桑折町の１５歳の目指す姿」に向けて，学級の温度差なく同じベクトルで取り組んでいる活動です。また，創立１４６年目を迎え，諸先輩方が築かれた歴史と伝統ある本校の教育のさらなる充実のために，本年度は「本物の『あいさつ』『学び』『思いやり』『チャレンジ』」を掲げ，新体制で福島県内一の学校を目指して教職員が一丸となり取り組んでいます。特に，福島県教育委員会指定「学びのスタンダード推進事業」３年目の最終年度であり，その成果を子どもたちの姿で示し全県下に発信していきます。２６５名の子どもたちのために，ワンランク上の教育活動を日々展開できるように，学校経営のキーワードを「本物」「徹底」に掲げました。校長会の皆様，ご指導宜しくお願いいたします。

睦み合う里の小学校

桑折町立睦合小学校長　旗　野　宣　久

教頭として勤務させていただいた学校に，１年ぶりに校長として勤務させていただくことになりました。再会した子どもたちには成長の早さを感じました。それは，「今しかできない」「時期を逃さない」という視点を改めて認識する契機となりました。

子どもたちや保護者，学区内の様子など，よく知っていることを有利な条件ととらえ，教育活動に反映できることについて考えています。

先日，全校集会で子どもたちに校名について話しました。校名である「睦合」は，地名ではありません。明治２２年に近くの四村が合併した際に，「末永く睦み合う里」という願いが込められて「睦合村」と名付けられたそうです。

先人がこめた願いのように，子どもたちが睦み合う学校の実現と，「お帰りなさい。」と言って迎えてくださった，保護者や地域の皆様に応えられるよう，全力を尽くしていきたいと思います。校長会の皆様，どうぞよろしくお願いいたします。

伊達に戻って思うこと

国見町立国見小学校長　菅　野　敏　彦

教員人生が残り２年となった４月，伊達の地でまた勤務することができるようになった喜びを胸に，二本松から国見小学校に着任しました。

これまで伊達地区の小学校に通算１９年間勤務してきました。この間，子どもたちから珠玉のような思い出をたくさんもらったこと，また，先輩の先生方から指導いただいて力量をあげることができたこと，さらに，魅力的な歴史の地域素材で思う存分教材づくりに取り組むことができたことなど，私はこの伊達で教師として濃密なときを過ごし，計り知れない恩恵を受けてきました。

このように振り返ると，伊達に戻った自分がするべきことは恩返ししかありません。着任から２カ月たった今，それは，国見小学校の学校経営に全力であたることを通して実行していくことだと，気を引き締めているところです。また，微力ではありますが，地区校長会のお役に立てればと思っています。伊達地区の校長先生方には，お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

平成から令和へ，新しい時代の幕開けに，８名の新会員をお迎えし，平成３１年度・令和元年度の伊達地区小学校長会の活動が始まりました。教育界には「新学習指導要領の全面実施」「働き方改革」と時代の波が押し寄せてきています。波に飲まれないようにサーフボードをうまくコントロールし，令和の波を一枚岩で乗り越えていきたいものです。お忙しいところ，波乗りのヒントが満載の玉稿をお寄せくださいました皆様に，心より御礼申し上げます。